第８１号
令和5年12月12日
編集責任者　石井　卓也

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

秋闘　力強く決行！！

今年はコロナの５類への移行があり組織の上京運動は以前のように活発な行動となりました。６月より単組・地区農連・道農連の連携による波状的要請行動は秋闘と呼ばれる１１月の業態別中央行動をもって１年の区切りとなります。

１１月１４日～１５日の２日間に渡り行われた畑作・野菜対策中央行動には全道から５１名（北見地区２４名）が参集しました。

「持続可能な本道畑作・野菜対策等に関する提言」を北海道選出議員へ６班に分かれて提出し、私は衆議院第１会館をまわりました。提言の項目は２５項になりそれぞれを参議院議員会館で２日間、農水省・国交省・厚労省等の担当者延べ７０名ほどとの意見交換となりました。

基本法の見直しや食料安全保障については農業の現場を置き去りとした経済優位な政策に各地域参加者より強い懸念が示され、国境措置・ゲノム作物等の安全性について「科学的根拠うんぬん･･･」と言うだけの厚労省に対しては怒りを覚えました。

内麦優先・種子芋安定生産をうたう政策においては生産者にとってハードルの高い条件となっているので要件緩和をもとめ、麦・豆生産強化対策については年明けに再募集がある見通しです。個人的にはすでに高い基準で産地指定を取り付けた清里町としては、配分により財源が薄まらないか心配です。

農作物の安定的な輸送の要望については２０２４年のトラック問題に向け様々な対策が示されました。しかしほとんどが物流サービスの負担軽減・スマート化であり、原料作物の搬入等の場面では全く対策になるものではありません。

てん菜振興協議会等で課題となったトラック不足について生産現場の現状を説明しました。新幹線や大企業誘致による大型開発により土木事業とのトラックや重機の取り合いをなくすべく農水省・国交省が連携し北海道農業の関連基幹産業を守るよう強く要請致しました。

多岐に渡る意見交換・要請は常に時間割オーバーで休む間もなく内容の濃い２日間となりました。１人でも多く盟友がこのような運動に参加できればといつも思います。

来年度も引き続き力強い行動することを確認し上京団は解散しました。中央行動に興味のある盟友さんがいましたら、来年一緒に上京運動に参加しましょう。

坂　野

北見地区農民連盟書記長会「２０２３道外研修」

１１月１６日～１７日、北見地区農民連盟書記長会道外研修に参加させてもらいました。研修先は、農畜産業振興機構(エーリック）と農林水産省農産局との意見交換でした。

農畜産業振興機構との意見交換では、甜菜及び澱粉用馬鈴薯における需要動向について話し合いました。オホーツク管内では輪作体系を基本に甜菜、澱原馬鈴薯、小麦を生産しており、特に甜菜についてはコロナの影響による砂糖需要の減少、それに伴う砂糖の在庫の増大が大きな問題、また政府が需要のある小麦、大豆に転換を進める事業により甜菜の面積が急減している問題点について話し合いました。その他、砂糖の価格調整制度について話し合われ仕組みについては、甜菜、さとうきびは地域農業における基幹作物であり、地元の製糖工場は地域経済を支える重要な役割だが、国内産糖と輸入糖との原料作物の生産条件格差による内外価格差に対して輸入糖等から調整金を徴収、この財源を生産者及び製造業者に交付との事ですが、令和元年度は新型コロナウィルスの影響による需要減から大幅に粗糖の輸入の減少、令和２年度以降も同じ影響が続き、外糖相場の上昇、円安の進行に伴い調整金単価が下落し収入が減少したため、令和４年度末で累積赤字は５６２億円との事でした。

つづいて、農林水産省農産局との意見交換では甜菜、馬鈴薯をめぐる情勢について話し合いました。内容としてはエーリックで話したように調整金制度の累積赤字の問題点、今年度の高温による甜菜褐斑病の多発による低糖分、交付金の引き下げによる甜菜の面積激減による今後の不安感、澱原馬鈴薯生産拡大に伴う種芋不足の問題点、高齢化に伴う種芋生産者の減少、シスト線虫発生による種芋生産現場の悩みなどの話し合いが行われました。私個人では、いくら澱粉が足りなかろうとも、かたよった作付けではなくこの地域での輪作体系の維持が大切だと意見させていただきました。また種芋不足の問題点の話では農水の回答として、北海道内での種芋の流通の強化を進めて行く方向との事でした。

この２日間の研修会で、北見地区農民連盟の書記長会、事務局長含め１３名の結束力が高まったと感じました。

これからも機会があれば生産現場の意見を伝えて行きたいと思います。今後とも皆様の清里町農民連盟の活動にご理解とご協力をお願い致します。

久　保